



転進で5年ぶりに再訪、静岡の溪二本

安倍奥 安倍川黒沢左俣・白沢中俣

石井

【日時】2007年7月21日、22日

【メンバー】石井（L）、大野、高柳、栗原

しぶとい梅雨前線の影響で当初の思惑の新潟方面は絶望、転進案の中央アルプスも怪しくなり、一時はさじを投げかけたが、どうにか思い留まって比較的天気マシそうな安倍奥へ日帰り二本として再転進することにした。

「…ホントに行くんですか？」前夜、半信半疑な大野さんをはじめ、高柳さん、栗原さんと待ち合わせて一路東名を西へ。裾野からバイパスをひた走り、以前にも仮眠に使った「真富士の里」の軒下をお借りしてテントを張る。携帯でアメダスの予想画像とニラメッコしていたが、やはり夜中に多少の雨があった。

翌朝はどうにか雨粒となっていないような、低くたちこめた曇り空。早い時間から「真富士の里」へ仕事に来る地元のおばさん達に気を遣いつつ準備する。15分ほど上流に走った下渡の集落から林道へと入るが、先週の台風の影響で土砂が出ており、車は終点の10分くらい手前まで。他の三人がガチャを付けても大野さんは気が重いらしく、車から出てこない。どうにかなだめてようやく出発。

林道終点の茶畑の先から踏跡を沢へと下り、やや水の多さを感じる小ゴルジュを越えると、しばらくはゴーロとワサビ田と植林の平凡な沢筋だ。右俣を分けると急に周りの地形が立ちこんできて、左手に堂々とした二本の直瀑が懸かる。左側の滝上には兩岸がゴルジュとなった連瀑がさらに何本も懸かり、ここで一気に高度を上げている。ルートは左側のザレ気味の斜面から樹林帯へと大きく巻くが、足元が悪い。一度尾根に出てひと休みし、連瀑帯上にあるスタレ状の15m滝の上まで一気に巻くとようやく手の付けられる滝となり、楽しく越えていく。

続く四段のナメと釜は「七ツ釜」と称されている通り、樹林帯の中ながら調和の取れた美しい景観である。下の二つはフリー、上二つは左手のトラロープに導かれて巻く。しばらくは枝沢を左に右にと分け、山道が横切ったりと平凡な溪相だが、徐々に傾斜は強まり、5～15mのナメ滝が連続するようになる。右手に15mの滝を水量比1:1で分けると、本流にもホールドの少なそうな15m滝が懸かる。右寄りの凹角を登っている記録もあるようだが、時間がかかりそうなので左から巻く。ロープを出すような悪い巻きとなり、少々手こずった。滝上に出たところで小雨が降って



きたので、これより上部は割愛して左の支流より作業道を目指すことにする。案の定、送電線巡視路の枝道にすぐに出ることができた。

巡視路は山腹をトラバースし、671の手前で浅間原からのハイキングルートと合流して尾根へと出て、あとは下部の造林地へと続き、林道へと下っている。道は一部崩れかけているところもあるが、概ね明瞭。分岐が多いので方向には要注意。

下山後、真富士の里近くのわらびの温泉に行くも休みで、仕方なく梅ヶ島温泉まで延々と往復する。夜は再び真富士の里の軒下にお世話になる。近くの集落の夏祭りであろうか、霧雨の合間を縫って7時から9時半くらいまで打ち上げ花火が行なわれていた。思いがけなく特等席で夏の風物詩を鑑賞することができ、得した気分ビールが美味かった。

翌朝もまた真富士の里に働きに来る人に起こされる（ようなものだ）。昨日の一本上流の林道に入るが、ここも水害で荒れており、終点少し手前に駐車する。急坂を登った茶畑の先から山道を行くと、巨岩ゴーロの沢を渡る辺りで道を失う。仕方なく沢沿いに行くが、やはり歩きにくいのでワサビ田と荷物用モノレールに沿った踏跡を拾いながら二俣まで行く。人が入らず、5年前より荒れた感じがした。

二俣より沢に入ると、15分ほどで陰鬱なゴルジュに入り、小滝の連続を越える。次のチョックストーンのある7m滝が5年前の転落事故現場だ。慎重にこれを越えると、左手天高くから数段に分かれて左俣の大滝が流下する圧倒的な景観となる。ここだけ樹林も開け、なかなかの見ごたえだ。右手に支流を分け、小滝を越えた先に20mの直瀑があるが、一見して直登は無理なので、戻って左岸の尾根から高巻く。再び支流が分かれるが、本流より沢床の低いゴーロとなっており、間違いやい。左手の本流の滝を越えていき、続く15mのチムニー滝は大野さんが果敢にリードする。フォローで登っても結構悪かった…。

続くトイ状のナメ滝の連続は、フリーで登れて非常に楽しい。さらに白い岩のナメ滝、巨大な岩から二条に水流を落とす30m滝と、ほぼ一直線にグイグイと高度を稼いでいる。さらに登っていくと水量は急に減じて、正面奥の涸滝の中間部から水が噴き出している。この特異な滝は左から巻き、続く模様の面白いスラブ涸滝は左の凹角から越える。落石が高柳さんに当たりヒヤッとしたが、大事には至らなかったようだ。

やがて正面は大きなガレ場となり、沢型は右へと続いている。前回はこれを登って踏跡を見つけたが、横着して左手から登って踏跡を辿ったら、違う踏跡に入ってしまった。少し戻って正規の踏跡まで登り上げる。おそらく造林用の作業道だろうが、有東木の集落から尾根を辿り、険しい白沢の部分は緩くなった源頭部をトラバースするように付けられている。前回辿っているからこそ使えるが、濃霧で視界が利かない時など、これら目的の違う道を進むのはある意味危険でもある。下り気味にトラバースし、古い小屋掛けからはやや戻るように山腹を下るが、再びトラバー

スして尾根に出て、コルから右へ僅かで舗装道路に出る。あとは茶畑とワサビ田の広がる長閑な有東木集落の山村風景を楽しみながら下る。途中、集落下から尾根を越え、車のある白沢林道へとショートカットする。

帰りは再び梅ヶ島温泉へと向かい、安倍峠から富士川を経て東名に乗る。5年前のイメージとは裏腹に、思った以上に楽しめた転進だった。大野氏も最後は「いい沢ですね」と言っていたので、せっかくの休みを家で過ごして無駄にすることなく、良かった、良かった。

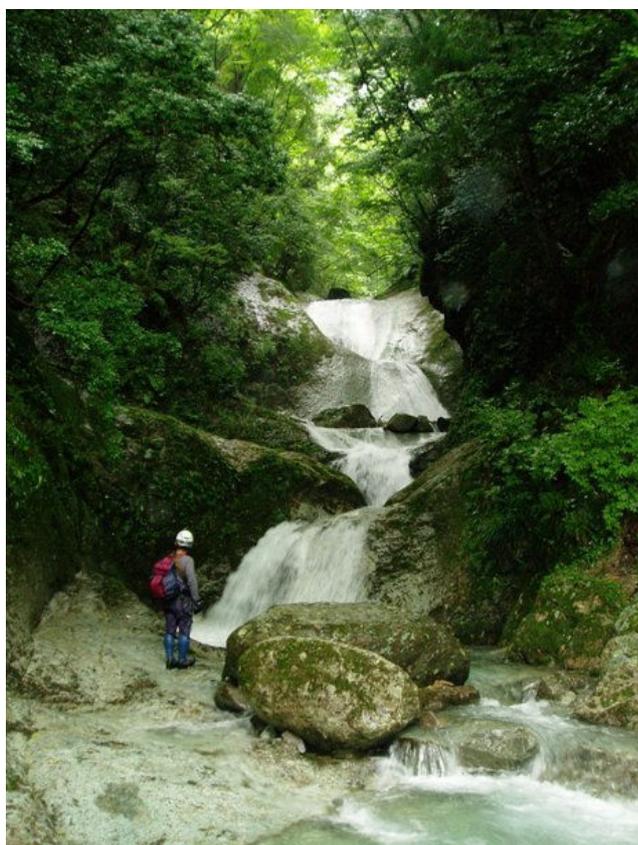
【コースタイム】

7月21日 車デポ (8:45) - 連瀑帯高巻き途中 (10:15/25) - 遡行打切り (12:35/45)
- 車デポ (14:05)

7月22日 車デポ (7:05) - 二俣 (7:55/8:05) - 30m滝上 (10:30/40) - 山道
(11:55/12:10) - 車デポ (14:10)

【地形図】 1:25000 篠井山、湯の森

【グレード】 どちらも2級～2級上。下山のルーフアイは3級かも。



<黒沢の七ツ釜：4段 40m>



<白沢・二条 30m滝>

